

【研究ノート】

中国農村での「代耕」による農地流動化の社会的要因： 湖南省都市近郊農村を事例に

李 妍蓉・浅見 淳之

【キーワード】 代耕, 農地流動化, 人情性関係, 道具性関係

【JEL 分類番号】 Q12, Q15, Z13

1. はじめに

中国では農業の担い手不足や農地の荒廃などの構造問題が顕著になってきており、2008年の共産党全国大会でも農地流動化を全面的に推し進める決定がなされた。しかし個人レベルでの流動化は規模の経済が求められるというよりも、農民が出稼ぎにいくために農地を在村農民に管理をまかせて、荒廃を防いでもらっているだけの状況になっている。これは「代耕¹」と呼ばれている。「代耕」のための流動化はいかなるメカニズムで進展するのだろうか。

本稿では農地流動化を決定するメカニズムを「経済的要因」だけでなく非経済的な「社会的要因」から説明する。まず経済的要因であるが、

これは規模の経済によって借り手の生産による剰余が地代部分を上回る需給条件が整うことである（梶井, 1973；稲本, 1987；加古, 1984）。中国の農地流動化に関する先行研究はいずれも農地市場を仮定し、経済的要因に注目して流動化を検討している（宝劔, 2011）。たとえばマイクロデータによって農地流動化の意思決定に影響する経済的要因を検討している研究がある（仙田, 2005；T.Qin, 2006；唐, 2008）。しかし中国農村では、農家レベルでの「個人対応型²」では、農地賃貸借市場が成立することが難しい状況にあるとされている（浅見, 2009 a）。それは、Song (2005) によると農地財産権の不完全性などの高い取引費用によるとしている。

加えて本稿では、社会的要因に関連した取引費用にも注目したい。経済的要因が整っていなくても、社会的要因によって流動化が進むこともある。

すなわち、親族・友人とのツキアイの積み重ねの中で、彼らに頼まれたから農地貸借を行ったという聞き取り結果が、我々の行った多くの

1 代耕は無料で農地をまかせるケースがほとんどであるが、受託者が毎年わずかな謝礼を物、金で委託者に払うケースもある。A村では代耕はほとんど無料であるが、C村では野菜栽培農家がこのわずかな謝礼を委託者に払うケースが主に見られた。ただしこの謝礼は地代ではない。地代は稲作大規模借地農の形成条件として、「単位面積当り上層農の剰余 \geq 単位面積当り下層農の所得」という判断基準によって定義される。代耕の謝礼は、農地の単位面積当たりの所得をはるかに下回っており、地代とみなせない。この謝礼はC村で1畝当り50～150元に相当する額となる。これに対して零細農家の平均所得は1畝当り400元である。

2 「個人対応型」とは、社会関係（人間関係）を利用して同じ村内の他の構成員への請負委託などである。これに対して、「集団対応型」の農地貸借もある。「集団対応型」とは、村内外の専業農家または企業が経営する生産基地や大規模経営に、村が集団で農地をリースする形態である。

臨地調査で確認された。つまり代耕のための農地流動化は、このような社会的要因によって支えられているのではないだろうか、という問題意識に到達した。社会的要因とは何か。中国農村においては、血縁関係・地縁関係でのツキアイや相互扶助といった社会的関係が濃密である。特に中国農村での取引は、親族関係や縁故といったインフォーマルな「関係」(guanxi)に強く支えられていることが確認されている(浅見, 2009b)。もっとも、アメリカ農村においても、小作の契約形態に社会的関係が影響していることが確認されており(A. Schmid, 1995)、土地取引における社会的要因は注目に値する。本稿では社会的要因として、中国の農地貸借取引では、「関係」が強くかかわっていると考える。「関係」には、感情を基にした「人情性関係」と計算的な「道具性関係」がある(浅見, 2009b; 黄, 1988; 陽, 2000)。この2種類の「関係」が社会的要因として、経済的要因とならんで、農地貸借の意思にいかにかかわっているかを明らかにしたい。

そのために、内陸部の稲作生産地帯である湖南省都市近郊農村(A村, C村)において流動化に関する農家調査を行った。調査結果を用いて、第一に、調査した農家経済情報を用いたCD型生産関数による規模の経済の計測によって、「経済的要因」を検討する。第二に、農地貸借に「社会的要因」(関係)がいかにか組み込まれているかを、ツキアイにおいては親しが増す場合と減る場合では効用関数はその形態が異なるという視点から考察し³、世帯主への面接調査に基づいた二項logit分析によって明らかにする。

2. 調査村の概要と農地流動化の実態

湖南省の都市化の度合いが異なるA村, C村で、農地流動化に関する面接調査を各60, 49戸の農家に対し、2008年7月から2ヶ月間にわたって

行った。伝統的農村Aは(表1)、稲作単作地帯にあり、都市部から約8キロ離れている。農外就業によって農地の供給が出てきた一方で、畜産が盛んで農地の需要が多くないはずにもかかわらず、農地の貸借が進んでいる。また、貸し手農家の戸数が借り手農家とほぼ同数であり、大規模農家による農地集積というよりも、筆単位の個人間の流動化、つまり代耕がなされていることがわかる。加えて面接調査のなかで、伝統的農村社会の慣習を強く残し、血縁、地縁関係を重視していることがわかり、「人情性関係」の重要性を4段階で評価してもらうと、平均して2.8で評価点が高かった。

都市化の進んだ農村Cは(表1)、稲作+野菜生産地帯にあり、都市部まで1キロしか離れていない。C村では、農外雇用によって農地の供給が出てきており、同時に野菜の規模拡大による農業収益向上を図るための農地の需要が生じてきている。ただし、C村は近い将来、新しい県庁所在地とする計画があり、農地の収用と転用が近年進んでいる。貸手農家は、収用を期待して、地代を要求せず農地をいつでも返してもらえるような代耕を選好する。また、借地農家は野菜栽培としての農地の需要はあるが、収用が予想されるため短期的に野菜栽培が行われ、とにかく生産費を安くしようとしている。したがって、C村ではわずかな謝礼での短期の代耕がほとんどであると考えられる。一方で、村社会の人情性関係がありながらも、農地の収用や転用に際しては自己に有利な条件を提示してくれることを期待して、村幹部等の有力者に貸し出したいという道具性関係の繋がりを重視していると思われる。面接調査において「道具性関係」の重要性を4段階で評価してもらうと、平均で2.6であり確かに重視していることが確認された。

いずれの村も、農地流動化は全面積の10%~20%となっており、日本農村に比較しても進行していることが確認された。

3 効用関数の考察については、たとえばセイラー, 2008を参照。

表1 調査村の特徴

	都市化の度 合	農外就業	農業所得	農家所得	農地貸出 農家の割合	農地借入 農家の割合	農地貸借 面積の割合	小 組 間 農 地 貸 借 面 積	借地 需要	貸借 謝礼	人 情 性 関 係 資 本	道 具 性 関 係 資 本
A村	伝 統 的 農 村 地 域	労働力の4割	12420.5元 (畜産71%)	34281.7元	31%	29%	22%	17.4畝	なし	なし	2.8	2.4
C村	都市化し た 地 域	労働力の3割	4876.5元 (野菜60%)	43054.1元	11%	5%	10%	101.02畝	あり	あり	2.5	2.6

(出所) 筆者作成

表2 機械に関する生産関数

パラメーター	α	β	γ	σ	$\alpha + \beta + \gamma + \sigma$
生産弾性値	0.177 **	0.202 ***	0.187 *	0.149	0.715
t 値	2.090	2.790	1.690	1.290	-
R ²	0.3671				

注：1. ***は1%，**は5%，*は10%の有意水準を示す。

2. 本来、村ごとに計算すべきであるがサンプル数が少なすぎるので、プールして計算した。サンプル数を増やすために、さらにもう1村(B村)の調査結果を利用した。サンプルは農業機械を所有する農家とし、その数はA村で11戸、C村で25戸、B村で21戸である。
3. 生産関数の被説明変数としては稲作の生産量(kg)を採用した。

3. 農地流動化に関する経済的要因

第一に、稲作において経済的要因をもたらす規模の経済性があるかどうかの検証を、CD型生産関数によって行った。計測結果は表2に示した。 α 、 β 、 γ 、 σ はそれぞれ耕地弾性値を表す。耕耘機を持つ農家において、生産面積、労働時間、耕耘機の実質価格と肥料の金額の生産弾性係数の和が1より小さかった。和が1でないかどうかの検証を、生産関数のlinearity testによって試みたところ、1%の有意水準で生産関数のlinearityはみだされなかった。即ち和は、有意に1から乖離しており、むしろ規模に関する収穫逓減が認められた。

第二に、規模の経済性による稲作大規模借地農の形成条件が満たされているかどうかを、「単位面積当り上層農の剰余 \geq 単位面積当り下層農の所得」かどうかという判断基準によって検討した。表3は、調査対象農家の稲作について、上層(作付面積19畝以上)農家の1畝⁴当

表3 稲作における1畝当り平均所得と
 限界剰余の規模間比較

単位：元/畝

	19畝以上	7畝以下
平均所得	482.9	218.1
平均剰余	106.1	-1449.5
限界剰余	68.7	193.9

- 注：1) 平均剰余 = (生産物価額 - 第1次生産費) / 作付面積
 平均所得 = (剰余 + 家族稲作労働費) / 作付面積
 限界剰余はCD型生産関数において、利潤最大化を実現する投入量の組み合わせの下での土地の限界生産物価値として算出した。
- 2) 作付面積：最小0.7畝，最大25.4畝

りの剰余・所得と下層(7畝以下)の剰余・所得とを比較したものである。上層農家の1畝当り水田の平均剰余、限界剰余が下層のそれらに比べて低く、稲作大規模借地農が形成される経済的要因はまだ整っていない。

したがって、兼業化が進んで農地の供給が来てきても、稲作においては規模の経済という根本的な経済的要因は整っておらず、需要が十分には形成されていないといえる。しかしながらその一方で、農地流動化が部分的に進んでいる

4 1畝(ムー) = 0.992アール = 666.67m²、15畝 = 1ヘクタール。

という事実がある。これは経済的要因というよりも、社会的要因によるものではないかと考え、この点についてさらなる検証をしていく。

4. 農地流動化に関する社会的要因

1) 社会的要因の基本モデル

中国農村における社会的要因は「関係」に基づくが、これは資本として形成されていると考える。いわば「関係資本」であり、1対1の人間の間社会関係に蓄積されている、信頼基盤のような無形の資本である。この「関係資本」は物的資本と違って、人と付き合うプロセスで、相手の評価によって蓄積または削り取られる資本である。効用関数は線形とし、関係資本からのフローである効用または非効用は、関係資本が蓄積される場合と削り取られる場合では、その程度が異なるとする。図1のように、縦軸は正では効用、負では非効用の度合い、横軸は正では加わる親しさの度合い、負では失われる親しさの度合いを表す。いわばツキアイにおいて、キंकした効用関数が形成される。

第一に、関係資本が削り取られる、つまり親しさが失われていく場合を考える。失われるに従って非効用は増していくが、「関係」のタイプによってその程度は異なる。貸借相手が親族、親友である「人情性関係」において減少度合いが大きく、次いで貸借相手が社会的地位を持つ人である「道具性関係」、貸借相手が一般村民である「一般的関係」が最も小さくなると考えられる。人情性関係は、面子が失われるときに最も大きく効用が失われる。Dを親しさに応じた効用とし、添え字 f を人情性、s を道具性、o を一般的とすると、その限界値D'は、負の領域においては $D_f' > D_s' > D_o'$ という順序になっている。たとえ経済的要因によって効用が高まる場合でも、社会的要因として親しさが損なわれた場合には総効用は負になる場合もある。例えば、借地需要が存在しないにもかかわらず、農地を無理やり親族、親友に押し付けた場合など、親族に対しての委託農家の「人情性関係資本」は大きく削り取られ、マイナスになってしまう。

第二に、関係資本が蓄積される、つまり親しが増していく場合を考える。増すに従って効用も増していく。やはり「関係」のタイプによってその程度は異なるが、親しが増える場合は減る場合とその順序が異なる。貸借相手が社会的地位を持つ人である「道具性関係」において増加度合いが最も大きく、次いで貸借相手が親族、親友である「人情性関係」、貸借相手が一般村民である「一般的関係」が最も小さいと考えられる。すでに存在する人情性関係よりも、新たに形成される功利的な道具性関係が蓄積されていく方が、効用は大きい。限界値D'は、正の領域においては $D_s' > D_f' > D_o'$ という順序になる。例えば、借地需要がある場合、農地を社会的地位がある人に貸出すと、その人とのコネが深まり、近い将来、転用などに際し何らかの利便性をはかってもらえる可能性があるため、貸し手の「道具性関係資本」の蓄積によって農家の効用が高まる。しかし「人情性関係資本」においても、道具性関係ほどではなくても、親族、親友の農地を引き受ける農家が「農地を耕して相手に協力してあげた喜び」を感じるようになる。

2) 仮説

A村とC村では都市化の度合いが異なるため、経済条件、社会的要因が異なる。A村では農地供給があるにも関わらず、畜産が中心であり農地需要がない。貸し出す場合は、農外就業の為に無理に農地を「借りてもらう」といった状況である。借入れる場合は、「借りてあげる」といった状況である。同時にA村は伝統的農村で、人情性関係がまだまだ色濃く残っている一方、道具性関係は認められない。C村は農地供給がある中で、稲作に関しては需要はないが、都市近郊野菜産地で野菜作に関しては農地需要がある。貸し出す場合は「貸してあげる」状況であり、借りる場合は「貸してもらう」状況である。また都市化がかなり進み、工業用地、宅地への転用も期待され、収用の可能性大きく、それらを有利に進めたい。つまりその農地の将来の処理に関して、有力者の地位、コネを利用したいと

いう打算的な道具性関係がつくれやすい。ただし農村であるので人情性関係も残っている。以上の考察と基本モデルから次の仮説を立てる(図1を参照)。

仮説1:A村において貸し出す場合、無理に「借りてもらう」ために関係資本が削り取られてしまう。特に貸すことによる人情性関係資本の効用の減少分(ab)は、貸さないことによって同じだけの親しさを保つことによる効用部分(cd)より大きい。したがって人情性関係において、貸し出すことの非効用が大きい。

仮説2:A村において借入れる場合、「借りてあげる」のであるから、純粹に人情性関係が増加(たとえばcd)することになり、借入れることの効用が大きい。

仮説3:C村において貸し出す場合、「貸してあげる」のであり、今後の農地転用などで有力者とのコネを期待し、どうせ貸すのであれば社会的地位のある農家に貸したい。つまり道具性関係が増える程度(ce)が人情性関係が増える程度(cd)よりも大きく、道具性に基づいて貸し出すことの効用が大きい。

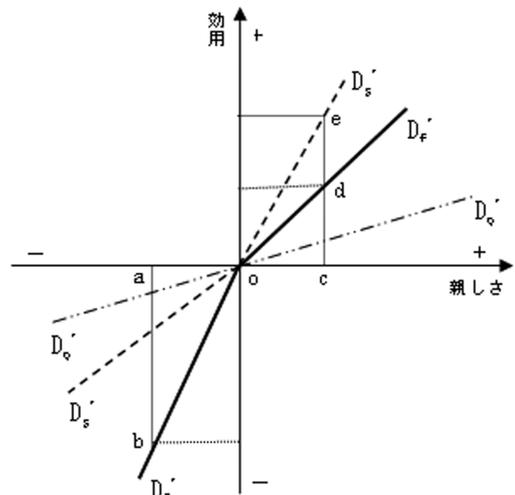
仮説4:C村において借入れる場合、「貸してもらう」ことになる。頼む側にあるので打算的な行動には結びつかず、道具性関係は関連がない。どうせ借りるのであれば親族・親友のほうが親しが増すことになり、伝統的な人情性関係において(cd)、効用が増えることになる。

5. 農地貸借の意向への logit 分析

1) 変数の説明

仮説を検証するために、各農家において、農地の貸出と借入に対する意向調査を行った。被説明変数を、意向があるを1、ないを0とする logit 分析を行う。一般的な農家経済状況に関する情報とともに、農地を貸す(借りる)のであれば、「貸出(借入)において親族・親友を重視」する、「貸出(借入)において社会的地位を重視」する、「人情があるから親族・親友に貸出(借入)」する、「面子があるから親族・親友に貸出(借入)」する、「貸出(借入)において高料金でも

図1 キンクしたツキアイの効用関数



(出所) 筆者作成

親族・親友を重視」する、「貸出(借入)において幹部を重視」する、「貸出(借入)において党员を重視」するといった社会的要因に関連した項目を、その重要さの認識において1から4までの4段階で評価してもらい、これらを説明変数とした。社会的要因に関して仮説ごとの予測は以下のとおりである。

予測1:A村では無理に農地を「借りてもらう」ため、親族・友人に貸出すと、一般村民に貸出すよりも人情性関係において大きく効用が減ってしまう。人情性関係を重視する場合は、むしろ貸出しを控える傾向があると考えられる。したがって、人情性関係を表す「貸出において親族・親友を重視」するほど、貸出す確率は低まるので、符号は負値が予想される。

予測2:A村では農地を「借りてあげる」ため、人情性関係が増加して効用が高まるため、人情性関係を表す「借入れにおいて親族・親友を重視」するほど借入れる確率は高まるので、正値が予想される。

予測3:C村では農地を「貸してあげる」のであり、今後の有力者とのコネを期待し、道具性関係において大きく効用が増える。したがって、道具性関係を表す「貸出において幹部を重視」するほど、貸出す確率は高まるので、

符号は正値が予想される。

予測4：C村では農地を「貸してもらおう」ので、打算的な行動には結びつかず、道具性関係は関連がなく、やはり人情性関係を表す「借入において親族・親友を重視」することが、正になることが予想される。

予測5：以上の社会的要因に関する予測に加えて、規模の経済以外の経済的要因、すなわち家族属性、土地、農業機械、農外雇用、経営部門についても予測をたてる。

① 家族属性：世帯主の年齢が高いほど貸出も借入も望まない。世帯主教育水準が高いほど、農外就業を求め、貸出をしたがり借入を拒む。

② 土地：農地需要がない場合、面積が大きい場合は農地が負担となり、貸出を望み借入を拒む。農地需要がある場合はその逆となる。農地の筆数が多いほど、煩雑で、貸出も借入も低まる。

③ 農業機械：農業機械を持っているほど、借入を望み、貸出しを拒む。

④ 農外雇用：農業就業が多いほど借入を望み、非農業就業が多いほど貸出を望む。

⑤ 経営部門：労働集約型の畜産であれば、土地が余るので貸出を望み、借入を拒む。土地利用型の野菜作であれば貸出を拒み、借入を望む。

以上の予測に対し、これらを示す代理変数と予想される符号を表4にまとめた。計算に際し

表4 経済的要因に関する予測

変数		貸出	借入
家族属性	①世帯主年齢	-	-
	②世帯主教育水準	+	-
土地	①耕地面積	+	-
	②耕地の筆数	-	-
農業機械	①農機械の有無	-	+
農外雇用	①農業従事者数	-	+
	②非農業就業者数	+	-
経営部門	①畜産従事日数	+	-
	②野菜従事日数	-	+

注：「+」は正を表す。「-」は負を表す。
出所：筆者作成

ではそのほかのコントロール変数も利用した。

2) 計測結果

2.1) A村の農地貸借における社会的要因

2.1.1) 貸出す場合(表5)

社会的要因に関しては、「貸出において親族・親友を重視」のみが有意に負になった。すなわち人情性関係においては、貸出すことは非効用が大きくなってしまい、貸出す確率はむしろ減ることになり、予測1を実証している。具体的には以下のように説明される。ある農家が出稼ぎに行くために、農地を貸出したいと思っている。しかし、農地が需要不足のA村では、親族・親友は自分の土地を借りても負担になるだけであると考えている。無理して借りてもらおうのでは親族・親友との間の「人情性関係資本」を損ねてしまい、むしろ効用が小さくなるので、親族・親友の評価が高いほど貸し出す意向が小さくなるのである。

2.1.2) 借入れる場合(表6)

社会的要因に関しては、「借入においては親族・親友を重視」のみが有意に正になっている。すなわち人情性関係において、借入れることの

表5 A村 貸出農家の場合(Logistic 回帰)

変数	B	有意確率	Exp(B)
年齢	-0.814	0.013 **	0.443
教育水準	-5.380	0.033 **	0.005
扶養人数	-3.687	0.072 *	0.025
耕地面積	1.969	0.043 **	7.163
筆数	-0.956	0.061 *	0.385
農機械の有無	-4.629	0.078 *	0.010
晩稲貸料料金	1.986	0.476	7.288
畜産従事日数	0.046	0.059 *	1.047
非農業兼業者数	1.420	0.395	4.138
サービス業への就業日数	-6.072	0.093 *	0.002
工業への就業日数	2.353	0.891	10.522
家族出稼総収入	0.013	0.694	1.013
貸出において親族・親友を重視	-2.844	0.035 **	0.058
貸出において社会的地位を重視	0.829	0.439	2.290
定数	60.362	0.030 **	1.63964E+26
サンプル数	60		
NagelkerkeR2乗	0.726		
的中率	93.3		

注：1. 「晩稲貸料料金」は、二期作の後期の稲の収穫時の委託費用。

2. ***は1%、**は5%、*は10%の有意水準を示す。
出所：筆者作成

表6 A村 借入農家の場合 (Logistic 回帰)

変数	B	有意確率	Exp(B)
教育水準	0.337	0.654	1.401
農業従事者数	2.951	0.006 ***	19.128
非農業兼業者数	2.007	0.025 **	7.442
耕地面積	-1.043	0.027 **	0.352
一筆耕地面積が小さい	-8.925	0.043	0
農機械の有無	-0.649	0.554	0.523
稲作従事日数	0.001	0.802	1.001
畜産販売収入	0.025	0.514	1.025
野菜販売収入	-1.848	0.429	0.158
その他農産物販売の有無	-2.936	0.109	0.053
借入において親族、親友を重視	2.966	0.033 **	19.415
借入において幹部を重視	0.244	0.858	1.276
借入において党員を重視	-1.78	0.181	0.169
定数	-1.553	0.578	0.212
サンプル数	60		
NagelkerkeR2乗	0.527		
的中率	88.3		

注：***は1%、**は5%、*は10%の有意水準を示す。
 出所：筆者作成

効用が大きいことを表し、予測2を実証している。つまり、出稼ぎ農家の土地をその親族・親友が借り入れるのは、農業収益上からはあまり魅力的ではないが、借りてあげることで恩を与え、自分の人情性関係資本を蓄積できることになる。表1に示したように、A村では、農地を貸借した農家数は全戸数の3割に達しているが、そのうち親族・親友同士が44人で全員の43%と主要な部分を占めている。このことから、この要因に基づく流動化が進んでいることがわかる。

2.2) C村の農地貸借における社会的要因

2.2.1) 貸出す場合 (表7)

社会的要因に関しては、「貸出しにおいて幹部を重視」のみが有意に正になっている。すなわち道具性関係において貸し出す効用が大きいことを表し、予測3を実証している。つまり、貸し手は借り手を選ぶ時、社会的地位がある有力者に農地を貸出し、その権力を利用して、将来、貸し出した農地が転用、取用される際の利便性を期待していると考えられる。

2.2.2) 借入れる場合 (表8)

社会的要因に関しては、「借入において親戚・親友を重視」のみならず、「人情があるから親戚

表7 C村 貸出農家の場合 (Logistic 回帰)

変数	B	有意確率	Exp(B)
年齢	-0.177	0.013 **	0.838
扶養人数	0.32	0.677	1.377
非農業就業者数	1.339	0.092 *	3.814
一筆耕地面積が大きい	0.481	0.506	1.617
農機械の台数	1.829	0.074 *	6.226
稲作従事日数	-0.008	0.108	0.992
野菜従事日数	-0.009	0.037 **	0.991
中稲貸刈料金	10.478	0.048 **	35535.694
貸出において幹部を重視	3.621	0.038 **	37.38
人情があるから親族、親友に貸出	-1.044	0.393	0.352
面子があるから親族、親友に貸出	-1.627	0.2	0.196
定数	8.203	0.027	3651.216
サンプル数	49		
NagelkerkeR2乗	0.576		
的中率	85.7		

注：1. 「中稲貸刈料金」は、一期作の収穫時の委託費用。
 2. ***は1%、**は5%、*は10%の有意水準を示す。
 出所：筆者作成

表8 C村 借入農家の場合 (Logistic 回帰)

変数	B	有意確率	Exp(B)
年齢	-0.169	0.016 **	0.845
扶養人数	1.418	0.149	4.13
教育水準	0.642	0.37	1.899
農業従事者数	1.842	0.032 **	6.31
耕地面積	1.312	0.024 **	3.715
農機械の台数	0.933	0.195	2.542
稲作従事日数	-0.011	0.149	0.989
畜産従事日数	-0.015	0.134	0.985
野菜販売収入	-0.282	0.026 **	0.754
借入において親族、親友を重視	2.396	0.078 *	10.978
人情があるから親族、親友に借入	3.365	0.027 **	28.928
高料金でも親族、親友から借入	-1.609	0.285	0.2
借入において社会的地位を重視	1.27	0.496	3.561
定数	-3.525	0.375	0.029
サンプル数	49		
NagelkerkeR2乗	0.570		
的中率	81.6		

注：***は1%、**は5%、*は10%の有意水準を示す。
 出所：筆者作成

・親友に借入」も有意に正になっている。すなわち人情性関係においてのみ、借入れることの効用が大きいことを表し、予測4を実証している。A村もC村も、借入れる場合は人情性関係において効用が高まる結果となっている。A村は需要がないのに「借りてあげる」状況であり、C村は需要があるので「貸してもらおう」状況で、

その意味は異なる。前者は、能動的に人情性関係に依存して借入れている。これに対し後者は、基本的には経済的要因で借りるのであるが、受動的に人情性関係も生かして借入れることになる。したがって、表1からわかるように、A村では実際親戚・親友から借入れる場合が多いのに対して、C村では、農地貸借をする農家数は全戸数の1割で、そのうちでも親族・親友同士が23人で全員の35%を占めるに過ぎない。

2.3) 農地貸借における経済的要因

おおむね、予測5を有意に支持する結果が得られた。ただし筆数、農業機械についてはA村のみが予測と合った。教育水準についてはA村で反対の符号がとなった。その理由はわからない。

6. まとめ

本稿では、中国農村において代耕による農地流動化に、社会的要因である「関係」がいかに組み込まれているのかを、湖南省の事例において説明した。まず、稲作においては規模の経済がまだ実現できず、農地流動化への経済的要因が形成されていないことを確認した。しかしそれにもかかわらず、個人レベルで流動化が進んできた原因を、社会的要因に求めた。社会的要因とは、「関係」を資本として蓄積または削り取ることに対する効用または非効用である。この「関係資本」は、増加する場合と減少する場合では効用・非効用に与える影響が異なり、人情性関係と道具性関係ではその順序も異なると考えて、ツキアイに対してキックした効用関数を考案した。

この枠組みに従って、湖南省都市近郊農村の農家への面接調査によるデータをもとに、借入れにおいては人情性関係資本が増加するのに対し、貸出しにおいて人情性関係資本が減少する場合には貸し出すことを控えてしまうこと、また都市化が急速に進む地域では貸出しに際して道具性関係資本を増やそうとすることを定量的に実証した。「代耕」による農地流動化には、経済的要因よりむしろ、これまでの研究では無視

されてきた社会的要因が深く組み込まれていることが実証されたといえる。

参考文献

【日本語文献】

- 浅見淳之 (2009 a) 「中国の農業構造問題と農地制度改革のゆくえ」『農業と経済』第75巻第6号, 6月, 68-72ページ。
- 浅見淳之 (2009 b) 「中国農村のインフォーマルな社会制度に埋め込まれた経済取引」『農業経済研究』第80巻第4号, 3月, 174-184ページ。
- 仙田徹志 (2005) 「中国農村における転包の意思決定とその生産性に与える影響に関する計量分析」『農林業問題研究』第41巻第158-161号, 6月, 12-23ページ。
- 稲本志良 (1987) 『農業の技術進歩と家族経営』大明堂発行。
- 梶井功 (1973) 『小企業農の存立条件』筑波書房。
- 加古敏之 (1984) 「稲作の生産効率と規模の経済性——北海道石狩地域の分析——」『農業経済研究』第56巻第3号, 3月, 151-162ページ。
- 宝剣久俊 (2011) 「中国における農地流動化の進展と農業経営への影響：浙江省奉化市の事例を中心に」『中国経済研究』第8巻第1号, 3月, 4-20ページ。
- リチャード・セイラー著・篠原勝訳 (2008) 『行動経済学入門』ダイヤモンド社。

【中国語文献】

- 黄光国 (1988) 『中国人的権力遊戯』台湾, 巨流図書公司。
- 唐文金 (2008) 『農戸土地流転意願与行為研究』北京, 中国経済出版社。
- 陽宜音 (2000) 「自己人: 一項有關中国人關係分類的個案研究」『本土心理研究』2000年6月, 1-41頁。

【英語文献】

- Schmid, A. A. and Robison, L. J. (1995), "Appli-

- cations of Social Capital Theory,” *the Journal of Agricultural and Applied Economics*, Vol.27, No.1, pp.59-66.
- Song Min(2005), “Land-Renting Market Imperfections and Agricultural Efficiency: Evidence from Chongqing, China,”『*農林業問題研究*』, Vol.41, No.158-161, pp.34-45.
- Qin, T., Nico, H. and Li, X. (2006), “Factors Affecting the Development of Land Rental Markets in China: A Case Study for Puding County, Guizhou Province,” *International Association of Agricultural Economists*, 2006 Annual Meeting.
- (り けんよう・京都大学)
(あさみ みつゆき・京都大学)

Social Determinants of Farmland Circulation in China: A Case Study of Temporary Land Rentals in the Suburban Villages of Hunan

Yanrong LI (Kyoto University), Atuyuki ASAMI (Kyoto University)

Keywords: Temporary Rentals, Farmland Circulation, Expressive Ties,
Instrumental Ties

JEL Classification Numbers: Q12, Q15, Z13

In rural China, the problems of declining young labor force and land abandonment are increasingly becoming serious. At the Third Plenary Session of the Seventeenth Central Committee in 2008, the Communist Party of China decided to reform the rural land system and comprehensively promote rural land circulation. Most of the circulation between farmers takes place because of migrant workers, not the land scale management needs. The farmers lend their farmlands to those who stay in village temporarily, when the farmlands are deserted. This is called “Temporary Land Rentals.”

This article examined the factors related to “Temporary Land Rentals” by analyzing the survey data from the rural Hunan province. First, the Cobb–Douglas production function model was used to determine that the scale economy of rice production based on investment does not exist in this area. Second, binary logit model was used to conclude that social factors such as “expressive ties” and “instrumental ties” are the most important factors in the promotion of land circulation between the farmers in rural China at present. In the absence of land demand in traditional rural areas, borrowing land is considered as a burden but strength of “expressive ties.” While in more modern rural areas, land rental plays a positive role in establishing and accumulating “instrumental ties.”